

I-3 外航船の船内文化・スポーツ・娯楽の設備・用具に関する船員の要望・提案

— 主として設備・用具に対する自由意見 —

目 次

A. はじめに…………… 47
 B. 設備に関する意見…………… 48
 C. 用具に関する意見…………… 53
 D. その他の意見…………… 58
 E. まとめ…………… 60

A. はじめに

船内での文化・スポーツ・娯楽面での船員生活をより快適なものにするために、またより充実したものにするために、船内の設備・用具はどのようなものが望ましいかについて、自由記入型式での意見をまとめてみる。

調査時期 1976年9月～1977年3月

調査対象 ①外労協所属の5社11隻に乗船

表1 設備、用具に関する意見 5社11隻乗組員
—自由記入— M社23隻責任者(1977調べ)

	設 備		用 具		現状で充分		そ の 他		計	
貨 物 11 隻	24人	37.5%	35	54.7	1	4	63	64	100.0	
コンテナ 8	31	53.4	19	32.8	2	6	10.3	58	100.0	
鉾 油 4	12	54.5	10	45.5	0			22	100.0	
鉾 石 3	7	100.0	0					7	100.0	
タンカー 6	13	23.6	29	52.7	9	16.4	4	7.3	55	100.0
他 2	3		0					3	100.0	
34 隻	90		93		12		14	209		
(%)	(43.1)		(44.5)		(5.7)		(6.7)			

中の乗組員

②外労協所属の某M社の全船の責任者

調査方法 アンケート郵送方式

(これは昭和51年度船員福祉の理念とその具体策に関する調査において行った調査の一部である。なお、1976年に某S社が同様の調査を行っていたので、あわせて考察を行った。)

それらの意見を、設備に関する意見と用具に関する意見に単純にわけると、表1のごとく、全体で見るとほぼ同数90人43.1%、93人44.5%である。また船内での設備・用具は現状で充分とする意見は12人、5.7%、その他の分類にわけられた意見は14人、6.7%である。(意見の記入者は120人、意見は延べ209である。今回は後者の分類で報告する。)

以下、設備に関する意見、用具に関する意見、その他の意見の順で、その生の声をもとにのべてみる。(意見のうち、某M社と某S社はいずれも船の責任者又は担当者がのべている。5社は乗組員のものである。)

表2 設備面での意見

M社23隻
5社11隻(1977調べ)
(隻、人、%)

	ス ポ ー ツ ル ー ム	サ ン ル ー ム	プ ール	ゴ ル フ ネ ット	平 面 デ ッキ	多 目 的 ル ー ム	レ ク ル ー ム 室	喫 煙 ス ペ ース	広 い ス ペ ース	屋 外 ネ ット ス ペ ース	図 書 室 ・ 本 棚	和 室	麻 雀 室	そ の 他	計
貨物11隻	10人 41.7%	2	1	2	1	1	3				2		1	1	24
コンテナ8	9 29.0	4 12.9	7 22.6	2			1				2			6 19.4	31
鉱油4	9 75.0		1	1						1					12
鉱石3	3 42.9		2				1						1		7
油・タンカー6	5 38.5		6 46.2					1			1				13
他2	1													2	3
計34隻%	37 41.1	6 6.7	17 18.9	5 5.6	1	1	5 5.6	1	1	4 4.4	1	2	9 10.0		90ヶ (100.0)

B. 設備に関する意見

90人があげた設備に関する意見を単純にまとめてみると表2のごとくであり、体育室・スポーツルームに関する意見が多く37人4割を占める。次いで、プールが17人約2割ある。船種別にみると、体育室、スポーツルームは鉱油兼用船に特に多く、プールは油・タンカーに多い。その他数としては、サンルーム、ゴルフネット、娯楽室・レクルーム、図書室・本棚等が多い。運動のできる場所の要求は体育室・スポーツルーム37、プール17、サンルーム6、ゴルフネット5、平面デッキ1、多目的ルーム1、屋外ネットスペース1、で計68あげられており、船内での余暇を充実させるためには運動が大きな役割をもっていることが推察できる。

1. 体育室

体育室・スポーツルームについては天井を高く、床面積を広く、板張りにという、運動をする場所として基本的な要素が多くの人にあげられている(意見例、以下同様、意見1)。(意見1)

04丸、コンテナ、甲板手、36歳
とびあがったら頭が天井につかえるような所でなく甲板を一段抜いて心理的にも広く高く、少しぐらいはずみがついてもサイドに衝突しない様な体育室がほしい。

ついで、体育室の設備としてシャワー・更衣室が必要であること(意見2)。

体育室の場所は、居住区近くに置くこと（意見3）等があげられている。

（意見2）

09丸貨物 操機手 49歳

設備用具が利用出来る広さをもつ体育室と体育室に付いた簡単なシャワーと更衣設備が望ましい。

（意見3）

M/丸、S3 6.1 1.2 7 建造、貨物船、南阿航路、37名乗組

（部分）

体育室の設置場所を乗組員居住区近くに置く、手軽におこなえるようにすべき。また日光も取り入れるようにする。

一方、船種や職種、就航航路によって必要だという例もある（意見例略）。

その他、体育室の設置されている船に乗船している人からも種々の意見が出されている。体育室が設置されているとはいえ狭かったり、振動と騒音のはげしい場所にあったり、居住区同一ハウス内にない場合や、採光が不十分な場合等は十分に利用されないことがあげられている（意見例略）。

同じく現在のような名前だけのものではなく運動不足になりがちな船内においてはもっと体育室が配慮されてしかるべきという意見がある（意見4）。

（意見4）

23丸、S4 2.2.2 7 建造、ケーブルシッ

プ、28名乗組

一般商船に於てはスポーツ施設（例えば体育室）といっても部屋も狭く、場所も不便で唯スペースだけ取って名だけ付しておけばよいといった感じが強い。とかく運動不足になり勝ちな船内に於てはもう少し配慮されてもよいのではないだろうか。

以上のように、体育室、スポーツルームに関する種々の意見があるが、これらのことから、多くの人々は船内において運動（日光浴も含む）ができるように、天井の高い、床面積が広い、床が板張りの、そして居住区に近い（騒音・振動のより少ないところ）、採光の十分な体育室をのぞんでいることがいえる。しかも、名前だけの小さな体育室はもはや限界がみえており、船員の意識はもっと先へすすんでいるといっ

てよからう（意見5）。

（意見5）

S12丸、船長、タンカー

船の専用船化、大型化に伴って、各船とも今後、広いスペースと高い天井をもったミニアスレチックハウスのような体育室が必要になると思う。

従来の基準で考えるような整備拡充の方法では今後の乗組員の体育・娯楽・レク等の意識や行動も変化は起らないであろうと思われる。

これらの声を十分に反映した、船の体育室の設置が検討されねばならない。

2. プール

プールの設置は若年齢層から高年齢層まで幅

多くのぞまれている(意見6)。またタンカー、コンテナ船に多くのぞまれている(意見7)。(意見6)

08丸、コンテナ、通信長、57歳

我社最近の新造船にはスポーツルーム・娯楽室の設備があり大体の設備、用具の設置があり、満足すべき状態にあるがプールの設備があれば更に効果的と思われる。

(意見7)

04丸、コンテナ、操機員、39歳

ほとんど熱帯地方にいたのでプールの設備があればよい。

プールの魅力のひとつとして、裸で日光にあたれることがあり、機関部の人にあげられている(意見8)。

(意見8)

01丸、タンカー、機関手、29歳

プール等、外で裸で出来るものが欲しい。エンジンは昼間は外へ出る事が少なく、本船のようにMO船の場合、AM8:00~PM5:00までの仕事の為日光にあたる事が少なく、又熱暑地帯の航海の為外では長時間の運動もできない。プールはその点特に良いと思う。他にバスケットやバレーボール等出来れば申し分ないが体育室にも限りがあるので多くは望めない。

また、水泳には、とくべつ仲間がいなくてもできるという長所もある(意見9)。

(意見9)

08丸、コンテナ、甲板員、27歳

船内文庫、麻雀等は現在かなり普及しているものと思いますが、船内の設備としてはこれからは乗組員がだんだん少なくなってきたので機械を相手に一人で出来る様な設備、用具等が望ましいと思います。

例 バッテングマシン・プール・ゴルフ
打放し(ネット囲い)

以上の観点に立ち、プールの設置を切望する。なかには消火ラインを利用する具体案を提供している人もいる(意見10)。

(意見10)

M8丸、S42.1.2建造、鉾石専用船、日本~チリ、29名乗組

(部分)

プールを設けてほしい、最近の大型船ではスペースは十分有る訳で、水を送るパイプにしても、消火ラインから、ホースで送れば良いし、ただデッキに“くぼみ”を設けるだけで良いのでは?

このようにプールについては、多くの人にその利点があげられ、設置がまたれている。具体的な設置については、これらの多くの人の期待を裏切らないように、その基本設計を十分検討しなければいけない。

たとえば、日本人がプールという場合は、あくまでも泳ぐことを意味するため最低13m×13m程度は必要であるし、航路や季節を考えると、天井は取りはずし自在とし、温水プールが

望ましいであろう。その他種々の具体策についても十分な検討が不可欠である。

3. サンルーム

船員でありながら、居室と仕事場のみの往復で全く海をみる機会がない生活になりがちであるということから、海や空や星がみられるサンルームがのぞまれている(意見11)(意見12)。

(意見11)

04丸、コンテナ、通信士、38歳

用具はともかく設備としてサンルームがぜひ欲しい。

スピードの速い船では船外へ出るだけでも多大の努力が必要で全然日光にあたれない。

またスポーツするためにも明るく広く感じる空間が必要である。

またベッド以外にも横になれる場所が必要と思う。

(意見12)

04丸、コンテナ、二機士、39歳

(部分)

サンデッキ又はサンルームのような所で日曜日の午後は海を見ながら談笑、夜は星をみながらグラスを傾ける事ができれば…。日本船は貧弱すぎる。

また特にエンジンや通信の職種の人からは日光にあたる機会をふやすという意味で、サンルームがのぞまれている。

これらを考えてみると、体育室、プール、サンルーム等についてはあい重なる要素が多く、

たとえば体育室とサンルームを兼ねたものやプールとサンルームを兼ねたものも考えることができる。これらの実現にあたってはプールの項でも述べたように、船員をふくめた関係各機関の間で、十分なる検討が必要であろう。

4. ゴルフネット、屋外ネットスペース、平面デッキ

屋外で運動を望む声も多く、そのためにゴルフネットや屋外ネットスペース(主として球技用)、平面デッキがあげられている。特に屋外ではネットとフェンス(風よけ)と水平な床面が可能な限り追求され、実現されるべきであろう。

フリーテニス等が楽しめる平面デッキ(意見13)。

(意見13)

M12丸、S37.6.20建造、貨物船、地中海、36名乗組

(部分)

船内には、フリーテニスができる程度の平面デッキがほしい。

球技のためのネットフェンス(意見14)。

(意見14)

07丸、鉱油、三航士、27歳

屋外で球技ができるようなネットに囲まれたスペース

多種・多量の本

ゴルフ練習用のゴルフネット(意見15)。

(意見15)

M9丸、S45.2.建造、貨物船、カリブ、
34名乗組
(部分)
ゴルフ練習用ネット

風に影響を受けずに球技をするための防風壁
(意見16)等である。

(意見16)

S9丸、タンカー
エンジンルーム上に、テニポン用防風壁
(周囲)をのぞむ、球技用として、風の強い
日でもプレー可能となる。(居住区内に
騒音の影響のない場所であること)。

その他、ランニングのためのランニングゾ
ーンもあげられている(意見17)。

(意見17)

S4丸、コンテナ
RUNNING WAY 又は RU-
NNING ZONE
DECK上にペイントで描く。
DECK上にランニングができる道(Z
ONE)を設けて、その道に沿ってランニ
ングを行う。その時、スタート地点からの
距離を途中に明示しておけば、ランニング
も楽しくなると思う。

5. 図書室について

図書室についても、他の部屋より独立した、
防音装置のある、かつ柵の多いものがのぞまれ

ている(意見例略)。

以上のべたような、船内のスポーツ、娯楽等、
余暇に関する設備の希望があげられている。調
査用紙に記入されたままの生の意見から、単に
比率からだけではわからない船員の考え方がう
かがえる。

6. その他娯楽室・レクルーム、喫煙ス ペース、麻雀室、多目的ルーム等

娯楽宿・レクルームについては、当然ながら
麻雀とステレオ、ビデオを別々にしてほしいと
いう意見が多い(意見18)。

(意見18)

M4丸、1966.9.12建造、貨物船、地中海、
35名乗組
麻雀をする部屋とテレビ・ステレオを別
の部屋にしたい。

又植物を栽培し、鑑賞出来る部屋も望まれて
いる(意見19)。

(意見19)

O8丸、コンテナ、三航士、28歳
植物を栽培、鑑賞する事が出来る様な
(海の見える)大きな窓付の明るい部屋が
ほしい。(もちろん騒音等の問題は解決さ
れていることは申すまでもありませんが)

特にタンカーでは喫煙スペースを広くする希
望がでている(意見20)。リラックスした時
間に麻雀等をしながら喫煙できるようにとい
うのであろう。

(意見20)

06丸、タンカー、機関長、42歳

本船においては、一応運動用具は設備されている。個人差はあるが、若人は運動よりもマージャンを楽しむ傾向が強いので特にタンカー等においては喫煙場所が指定されておる関係上十分にリラックスできるスペースがほしい。

なおタンカーからは防燥の問題があげられている(意見例略)。

C. 用具に関する意見

用具に関する意見は表1のごとく全意見のうち93人・44.5%である。船種別にみると、貨物船、タンカーが多く、それぞれ、54.7%、52.7%である。

93人があげた用具に関する意見を、大まかにに娯楽用品・用具に関するもの、スポーツ用具に関するもの、学習用品に関するもの、その他の用具に関するものと、用具に関する抽象的な意見とにわけてみると、表3のごとくであり、スポーツ用具は38人40.9%、娯楽用具は32人34.4%があげられている。船種別にみると、娯楽用具はコンテナ船とタンカーに多く、スポーツ用具は鉱油船、貨物船に多い。

次にこれら用具に関する具体的な意見についてみていく。

1. スポーツ用具に関する意見について

スポーツ用具に関する意見38の内容をゴルフ系、球技系、コンディショニング系、標的運動系にわけると、表4のごとくであり、コンデ

ィショニング系が44.7%、球技系が28.9%、ゴルフ系が21.0%となっている。船種別にみると、コンディショニング系は特にコンテナ船での意見が多く、運動をするための場所を比較的とらないものがコンテナ船で希望されていることが推察できる。また球技系では卓球が貨物船に多くのぞまれている。ゴルフは貨物船やタンカー等にのぞまれている。

① コンディショニング系の運動用具の内わけをみると、鉄棒・つりわ・マットという器械体操系が7と多く、ついで、エキスパンダー、バック台、背筋台というボディビルディング系が多い。その他ビューティサイクル・美容自動車や、室内マラソン器等である。これらコンディショニング系はいづれも、誰でも、いつでも、比較的せまい場所で、一人でも運動できるという特徴をもっている。

コンディショニング系統運動用具の意見例(意見21)(意見22)。(意見21)

08丸、コンテナ、二通士、39歳

消極的考え方ですが、今後増々乗組員人数が少数化される中で多人数でレクを行うことは困難かと思われるので一人でもできるもの例えば運動具としては現在ある背筋台、エキスパンダー、出来れば全身運動に効果的なプール設備が欲しい処です。

(意見22)

07丸、鉱油、甲板手、42歳

本船には体育室があるが卓球台があるため卓球する人がいるときは他の運動をする

表3. 用具に関する意見

5社11隻乗組員
M社23隻責任者
1977調べ
(単位:人)

	娯楽用品		スポーツ用具		学習用品		その他の用具		抽象的な意見		計
	用	具	用	具	用	具	用	具	用	具	
貨物	11隻	10人28.6%	17	48.6	2				6	17.6	35
コンテナ	8	8 42.1	8	42.1					3	15.8	19
鋳油	4	3	5	50.0					2		10
鋳石	3	0	0						0		0
油	6	11 37.9	8				4		6	20.7	29
他	2	0	0						0		0
計		32 34.4	38	40.9	2	2.2	4	4.3	17	18.3	98 100.0
備考		VTR麻雀等 本 カセットデッキ		習字・油絵							

表4. スポーツ用具に関する意見

5社11隻乗組員
MO23隻責任者
1977調べ
(単位:人)

	ゴルフ用具		球技系統		コンディショニング系統		標的運動系統	その他	計
	人	%							
貨物	4人		6	35.3	6	35.3	1		17
※1 コンテナ	1		2		5	62.5			8
鋳油	1		1		3				5
鋳石			0		0				0
油	2		2		3		1		8
計	8	21.0	11	28.9	17	44.7	1	1	38

※1. 隻数は表3と同。

事は不可能である。(せまい、やかましい等)

体育室にローイングマシン、エキスパンダー等があるが、一度も利用したことがない。(前項の理由により)

スペースはかなりあるのだから、体育室の面積も広くとるか、又は区画すべきであると思う。

卓球室と体育室を分けて体育室にはつり輪、鉄棒、室内マラソン器等の設備がほしいと思います。現在の体育室のあり方では一部利用者のみでもったいないと思います。

② 球技系の運動具は卓球が多くのぞまれており、その他フリーテニス、テニポン、ピッチングマシン、バスケット等があげられている。球技は特に扱う球によって、場所や人数や天井高に制限されがちであるが、球技を生活の中にとり入れることによって巧み性や敏捷性の要素の退化を遅らせることができ、船のより健康な生活に必要なものといえる。設備の項でのべた屋外のネットフェンスや、屋内での天井高等についての意見とをあわせ、船で、のびのびと球技ができるよう多くの意見や希望がある。特に卓球は現在備えつけられている船の意見をみると概ね良好である。

球技系統の運動具の希望(意見23)(意見24)。(意見23)

11丸、貨物、事務長、54歳

体育室、卓球道具、背筋台、バック台、往航はデッキ積カーゴが多くデッキ上で行なう体操運動等もほとんどできない。

ベルシャ湾内で沖待日数が多いので運動不足になりやすい。

前に乗船していた船には体育室があり卓球道具もあったので運動不足も防げ利用する人も多かった。

(意見24)

10丸、タンカー、一機士、44歳

スポーツルーム等は現在1室のみであるのでもう1室位はほしい。

又、スポーツに関してバレーボールやバドミントン等仲々やれる場所と設備がほしいです。プール等はぜひつけてほしい。但し10m以上のもの。

③ ゴルフ系の運動具の意見をみると、ゴルフ練習のためのゴルフシュミレーター、ゴルフ用具、デッキゴルフ等がある。船上でのゴルフはゴルフネットやゴルフ用具を備えつることにより、またデッキゴルフは場所の設定により、船員に好まれている運動である。

ゴルフ系統の運動具の希望(意見25)。(意見25)

M11丸、S42.7.3建造、貨物船、不定期、29名乗組

当社の最近の就航船に於ては、野球、ソフトボールをやる時間的余裕及び、入港先での場所が無いので、これ等の用具は今後不要なのではないかと思う。むしろ、最近ではゴルフが盛んであるので、ゴルフクラブ等の用具を支給してもらった方が良く考える。

④ その他用具に関する意見について、船に適した用具として、数々の要素があげられている(意見例略)。

いつでも、誰でも、1人ででもでき、楽しく、運動量のあるもので、多少荒天時でもでき、技術は低いものから高いものまで幅が広く等の要素についてふれられている。もちろんひとつの用具でこれらすべてを含むものは無理であろうが、これらの要素は用具を選ぶ時に常に考慮しなければならないであろう。

用具に関する以下の抽象的な意見は、用具を備えつける以前の心がまえの問題にふれている(意見26)。

(意見26)

05丸、タンカー、一航士
単なるあそびでなく、本格的スポーツとしての用具が必要。

2. 娯楽用具に関する意見32について
娯楽用具の内容をみると、表5のごとく、VTRについての意見が最も多く、ついで図書に関する意見が多い。また、麻雀、ミュージックテープ、囲碁・将棋についての意見も出ている。

表5. 娯楽用品・用具に関する意見

—自由記入— 1977調べ

5社11隻乗組員

MO23隻責任者

(単位 人、%)

	V	テ含カ ミセ ミュッ ト ジデ ツツ ブクキ	レ コ ド	本 ・ 新 刊 書	パ チ ン コ 台	麻 雀	ア短 波放 送受 信機	囲 碁 将 棋	小 計
貨物11隻	5人	1	1	1	1	1			10 28.6
コンテナ 8	3			3		1		1	8 42.1
鉍油 4	1			1		1	1		3 30.0
鉍石 3									0
油 6	3	2		2	1	1	1	1	11 37.9
他 2									0
計 34隻	12	3	1	7	2	3	2	2	32
%	12.9			7.5					34.4

① VTR

VTRについては、特にテープの数を増やすことと、より新しいテープをのぞむ声が多い。後者については、新しい情報を望む人間の本性として、当然のこととして実現につとめねばならない(意見27)。

(意見27)

M26丸、S43.6.14建造、鉱油兼用船、
三国間、32名乗組

(部分)

VTRはテープが定期的に届くが、かなり古いテープばかりで見る気がしない。もっと新鮮な文化的情報が欲しい。

② 音楽

ステレオ、レコード、カセットデッキに関しては以下のような意見が出ている。すなわち、音楽を自分達の生活にとり入れて育ってきた若年齢層は当然ながらよい音楽を船でもききたいし、カセットデッキによって可能になったことを喜び、その備え付をのぞんでいる(意見例略)に代表されるような、船の備えつけ用具に関して深い意見をもっている人の声が各会社の担当係に聞こえる道をもたねばならない。

③ 図書

図書についても、本の冊数の増加や、新刊書がほしいことがあげられている(意見28)。(意見28)

10丸、タンカー、三航士、26歳

三国間就航にも新刊図書を送付される事が望まれる。

④ 麻雀

麻雀については、設備の項でのべたように専用の個室が望まれている一方、健康によくないという意見も出ている(意見29)。

(意見29)

11丸、貨物、船長、43歳

定期貨物船では甲板上迄荷物、用具等を置くため、運動をしたくても場所がない。せいぜい魚釣り、ゴルフ練習、ラジオ体操、輪投げ等しか出来ないがラジオ体操以外は永続性のものはない。乗組員数も少ないので団体でやる娯楽は困難でせいぜい麻雀位であるが健康上の問題(煙草の吸い過ぎ、夜ふかし等)があるので自分はやらない。

囲碁や将棋も最近やる人は少ない。ビデオコーダーは利用者が多いので有効である。

⑤ 娯楽用具に関するその他の意見

長い航海の労をねぎらうにはすり切れたレコード盤は必要ないという船内娯楽用品に対する考え方が23歳の次席三航士に指摘されている(意見30)。

(意見30)

11丸、貨物、次三航士、23歳

狭い船内で限られた人間だけが使用する用具等はおのずから限定されてしまうような気がする。

娯楽用具といえば、これと、あれと……という具合にだからといって安くあげようとしてはいけないと思う。良質豊富な用具こそあきもこないし、長い航海の労をねぎらうには、すり切れたレコード盤は必要な

いのである。

同じく若年層から自分の趣味に応じて自分で
そろえるべきという意見もある(意見31)。

(意見31)

05丸、タンカー、機関員、22歳
船内の設備よりも自分の趣味に応じて自
分でそろえるべきと思う。

これら両端の意見が、健全な若年齢層の船員
の声と考えられる。

また、船内の設備はムード造りを考慮するこ
とが大切だという意見や、居住区の配置を考え
なおす必要を述べた意見(意見32)等は船の
生活を充分知った上での意見として重要である。

(意見32)

04丸、コンテナ、三航士、33歳
上甲板から2段目の居住区を全部、サロ
ン・メスルーム、スモーキング・ギャレー、
図書室のみにして乗組員居住室は他の階へ
移す。

以上述べたごとく、スポーツ用具や娯楽用具
の意見は、船の現在の余暇の設備や余暇のすご
し方の水準をものがたっているといえよう。

VTRのフィルム数や質、カセットデッキの
要求の背景には現代の一般日本人の余暇のすご
し方の水準がうかがわれる。逆説的にはこれら
種々の要求は船の低水準をものがたっていると
もいえる。これらの要求を出した個々人の意見
にふくまれるものの実現を願う。

D. その他の意見・現状で充分とする 意見について

1. その他の意見

具体的に設備や用具にはふれていないが、船
での余暇時間をより有効に過ごすことに関して
の意見があった。

これらの内容を見ると、乗組員の数が少ない
ことと、若年齢層が不足していることが、船の
余暇活動に根本的に原因しているという意見
(意見例略)や、船員としてプロであるならば
余暇を充実させることにもプロでなければいけ
ないという。当然ではあるが、きびしく、読む
人に襟を正させるような意見がある(意見33)。
(意見33)

08丸、コンテナ、一航士、42歳

疲労回復の為の時間(例:夜間当直者の
昼間睡眠時間等)が充分あると想定した場
合、余暇の過ごし方は各人の意志によると思
う。

つまり文化委員・レクリエーション委員、
リーダーの有無に拘らず、自発的に自分に
好ましい方法で行なえばいいのであり、吾
社の場合本船程度の設備、用具があれば充
分と思う。

船員としてのプロであるならば余暇の充
実化にもプロでなければならない。

また船内での余暇は、精神面のやすらぎを考
えるべきだという意見(意見例略)は、特に技
術革新や乗組員の減少にともない重要な意見で
あろう。

余暇をよりよく過ごすには、個人が良い趣味

をもつことが大切だという意見（意見34）
や、設備用具に優先して、船内ムードが必要
（意見34）

10丸、タンカー、操員、23歳
船内の設備・用具等はこれ以上ふやす
必要はなし、余暇時間を充分にすごすた
めには個人個人が良い趣味をもつことだ
と思う。

という意見（意見例略）もある。

このように、船内の設備用具を考える上に
より大切なこととして、精神面でのやすらぎ、
乗組員相互の人間関係その根本に個人の教養
の問題があることの指摘である。

また船の設計上の問題で、小さな部屋が多
すぎるとい意見（意見例略）は、乗組員数
の減少にともない、大きな部屋の必要性が潜
在しているのであろう（意見35）。

（意見35）

M/2丸、S37.6.20建造、貨物船、
地中海、36名乗組

船というのは、少人数で全員がいつも
顔をつき合せて、生活しているように思
われがちであるが、意外に全員が集まっ
て、話し合ったり、楽しんだりする機会
はないものである。

一方、陸上生活者に比べ、足腰が弱い
ことが指摘されている。これらのことよ
り、船内には全員が集まれるような部屋
（体育室、会議室、娯楽室等に兼用）が、
そして、船外には、フリーテニスができ
る程度の平面なデッキがあれば、より一

層快適な船内生活を送れると考える。

また、船体の動揺が原因して半ばあきらめている
意見もある（意見36）。

（意見36）

09丸、貨物、三航士、26歳

本船の船種（貨物船）及びハートからして、
船体の動揺があるので、設備・用具等につい
ての希望は特になし。

2. 現状で充分とする意見

現状で充分という意見のうち（意見37）は、
もともと船内生活は欲しいものも制限されるもの
だという前提で考えた結果の意見である。

（意見37）

10丸、機関士、30歳

船内の設備用具には船という限られたスペ
ースにおいて限度があり又、船種によっても
又会社からの仕様で欲しいものも制限されて
いるので現実にあれこれというよりは与えら
れたものの範囲内でやるしかないし又無駄な
用具もあつたりする。従って会社も船によっ
て全く考えていないし我々も要望しないし、
お互い人間ばなれた所がある。

また（意見38）のように麻雀さえあればいい
という意見もある。

（意見38）

06丸、機関士、22歳

大体毎日麻雀ばかりやっているのでは他のこ
とをする時間が無いので今のままで良いと思

う。

しかし現状で充分というこれらの意見は、その記入者が30歳、22歳と若年齢層であることを考えると、個人の健康に関する自覚と自分達の乗る船をよりよくしていこうという責任感に関する自覚の面で、より啓蒙される必要があると感じる。

E. まとめ

以上、船の余暇時間をより文化的にまたより快適に過ごすための、船内設備・用具に関する自由記入型式でのアンケート結果についてのべた。よせられた意見を、その生のまま記載することによって、単なる数字、数量のみで、しめされる表やグラフにあらわすことのむずかしいその背景にある船員の考え方がわかる。特に年齢、職種、船種、航路等の背景によって意見は重みづけられる。会社及び関係各機関はこのような船員の声を実現するという以前に、船員が当然もっているこれらに関する意見を、定期的に把握しておく必要があることが今回の小

文からわかっていただければ幸いである。特に娯楽設備にくらべて運動設備に関する意見はこの10年間にその水準が大きく前進してきている。また娯楽用具のなかでも、オーディオ器械は多様な開発によってその面での意見も多い。

設備・用具は船に設置もしくは備えつけることがその第一歩であり、その有効な利用がなされるよう、種々のサービスによって裏付けされねばならない。そのためにはサービスのための陸側からの人的配慮が当面では最も必要であろう。ノルウェーでは政府が積極的にサービスをしているが、日本においても、この面での公的機関の設立がのぞまれる。

船員は海上生活から得た貴重な意見を出すことによって、又会社及び関係各機関はそれらを聞くことによって、船員の船内での余暇生活が、より生活しやすく楽しいものになるよう、双方ともがおこたってはいけないと考える。

(担当者：篠原陽一・服部昭・広田弥生、

執筆者：広田弥生)